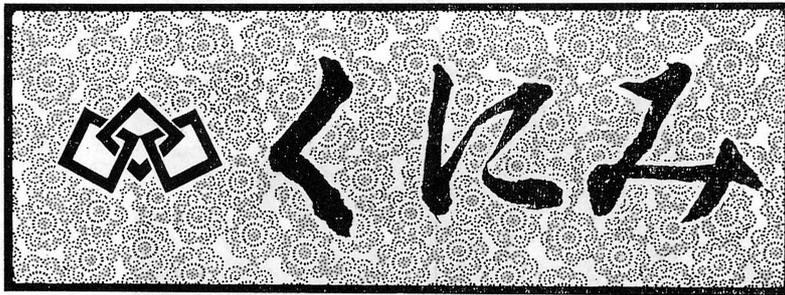


人口と世帯数	
男	5,848人
女	6,140人
計	11,988人
世帯数	2,681世帯
47.9.1 現在	



# スポーツの秋 健康はスポーツから



▲藤田小学校運動会



## 秋の全国交通安全運動

9月21日～10月1日

### 秋の全国交通安全運動の 実施に際して

公民館長 佐藤善次郎

秋の全国交通安全運動は、来る九月二十二日より十月一日まで十日間にわたって実施されることに決定された。

この運動は、運転者、歩行者は勿論のこと、その雇用者に至るまで、陸上交通に關するすべての人に、交通安全思想の周知徹底をはかって、正しい交通規則の実践を習慣づけ、交通事故防止の徹底をはかることを目的としている。当町ではこの種の運動はこれまでもすでに五十回も行なっているときいてきた。したがっていささかマンネリ化のきらいがないでもない状態である。しかし人間尊重という基本理念に基づく運動であることとを考へるならば、決してゆるがせにすべきものではないと思う。

交通地獄とか交通戦争とかのいまわしい呼び名を、一日も早く払拭すべく、全町民が一丸となつて、取り組まねばならぬ重要問題の一つである。交通安全の確保は、人、車、道路環境の三つの要素が、複雑にからみあつて、起きる

ものであるが、その多くは交通安全に対する基本的知識の不足と、遵法精神の欠除に起因するところが、まことに多いと思う。これは交通事故の原因別統計が雄弁にそれを物語っている。

この交通安全運動期間中に、地域の人達に対する基本的交通安全教育を強力に推進し、その意識を高揚し、そして交通安全運動が各自の生活に定着するように、念願してやまないものである。

特に今回の運動は「子どもと老人を交通事故から守ろう」をスローガンとしている。これは被害者の年齢階層中最も多く、そして社会生活の弱者である子どもと老人を重点的に考へたわけも理解されると思う。更に当町では、重点策として、スクールゾーンの設定がとりあげられ、九月二十二日から、直ちに実施されることと決定された。

ある。スクールゾーンは、すでに各地で実施され、良好な成績をおさめている現状を考へ、一日も早く町民の間に定着するよう念願するものである。

とかく各種の運動は、その期間が経過すると、もとの木阿弥となりがちであるがこのスクールゾーンは永続的であることを、正しく理解せねばならぬと思う。

わが国の高度経済成長は幸か不幸か、モータリゼーションをおし進めて、その止まるどころをしらない。増加の一端を導進する自動車台数、運転免許人口に追いつけない道路や関係施設の不備、それに加えてのドライバーの無謀運転、歩行者のルール無視によって起きる交通事故件数は、年々エスカレートするばかりである。その伸び率は都会地よりも、最近では地方部に多くなる傾向であること考へ、それに交通事故によって生ずる悲惨な事例が、自分の身の廻りに、あまりに多いことを考へ合せ、関係者各種団体等相協力して、この問題に取り組まねばならぬと思う。今回この全国的運動が、交通事故増加に有効なブレーキの役目を果たすよう、祈りたいような気持ちである。

# 県消防ポンプ操法

## 競技大会

第二分団第一節が出場  
八月二十九日、福島市荒井、県消防学校で開かれ、各地区予選を勝ち抜いてきた三十二チームが日ごろの技を競い合った。

当、伊達地方の代表として参加した第二分団第一節は健闘したが、惜しくも入賞はできませんでした。来年こそは上位入賞できるように期待いたします。



# 鉄道事故防止についてのお願い

## 国鉄藤田駅

最近列車のスピードが非常に速くなっており、特急や急行列車がたくさん走っております。

電化区間では電車の架線には竹ざななどを近づけないように。線路近くでは、田畑のビ

- 危険ですから特に次のよう  
なことに注意  
してください
- 線路では  
○子どもさんが  
レールに石な  
どを並べてい  
たずらをしな  
いようご指導  
を。
- 線路や鉄橋な  
どは歩かない
- 線路の近くで  
は子どもさん  
が遊ばないよ  
うご指導を。
- 線路を横断す  
るときは踏切  
を通るよう。
- 汽車に向って  
物を投げない  
ように。
- ニールが飛ばされないよ  
うに。
- 踏切では  
○必ずいったん止まって左  
右を確かめる。
- 警報機がカンカン鳴って  
いるうちは渡らない。
- 踏切に入ってからカンカ  
ン鳴り出したときは、あ  
わてないでそのままわた  
る。
- 複線では片方の列車が通  
過しても、他の列車が来  
ないのを確かめてから渡  
る。
- 先の車が踏切上で止まる  
おそれがあるときは踏切  
に入らないで待つ。
- 踏切上でエンストしたり  
脱輪したときは、先ず「  
非常ボタン」を押しして列  
車を止める。
- △中央の赤色ボタンを強  
く押す。(押すとカバー  
が割れて側面にランプが  
つきます。)
- △非常ボタンのない踏切  
では先ず次の方法で列車  
を止める。
- △近くの電話などを利用  
してもより駅や警察(一  
○番)などに急報する  
△近くにいわせれた人に  
協力を求める。いとまの  
ないときは列車に向って  
走りながら

# 列車の時刻表がかわります(藤田・貝田駅)

10月2日から列車時刻が一部改正され次のとおりになります。

	藤田発		始発	終着	貝田発		始発	終着
	上	下			上	下		
7.15	7.09	仙台 5.25	黒磯 11.15	3.35	3.43	福島 3.06	青森 14.23	
7.38	=	藤田	福島 8.01	5.49	5.55	上野 23.54	仙台 7.05	
8.27	8.20	仙台 6.51	上野 15.53	6.55	7.03	福島 6.34	仙台 8.23	
12.21	12.14	仙台 10.33	福島 12.55	7.27	=	郡山 6.03	藤田	
14.35	14.28	仙台 12.40	上野 22.38	8.32	8.40	郡山 6.57	仙台 9.57	
16.44	16.37	盛岡 10.40	黒磯 21.22	10.44	10.53	福島 10.22	仙台 12.15	
18.18	18.10	仙台 16.39	郡山 20.00	13.53	14.03	福島 13.31	仙台 15.21	
19.39	19.10	盛岡 12.55	郡山 21.08	14.48	14.56	郡山 12.58	盛岡 22.39	
20.52	20.35	仙台 18.57	福島 21.16	19.48	16.56	黒磯 12.36	小田 19.49	
22.52	22.45	仙台 21.23	上野 4.40	18.27	18.35	上野 11.17	関 23.02	
				20.02	20.10	福島 19.30	仙台 21.41	
				21.54	22.03	福島 21.34	仙台 23.16	

(夜間)△赤ランプや懐中電  
燈などを振る。△布切れ  
やシャツなどに火をつけ  
て振る。△発えん筒をた  
く。

町民卓球大会十月二十九日  
行事の要項等はいらん  
、有線放送でお知らせいた  
します。

町民ソフボール大会  
十月二十日

南蔵王登山 九月二十四日  
安達太良登山 十月十五日

町民ソフボール大会  
(家庭バレー)

十月二十日

町民ソフボール大会  
(家庭バレー)

町民ソフボール大会  
(家庭バレー)

# おめでとうございませう

(八月中出生届をされた方 敬称略す)

出生日	氏名	親名と続柄	住所
7.19	佐藤いずみ	清市の長女	泉田 平林7
8.2	佐藤和枝	彰夫の2女	山崎 南町田29
8.22	斎藤友茂庫	孝一の長女	山崎 山ノ神前45
8.5	古内淳子	寿の長女	山崎 北古館8
8.8	伊藤真一	清明の2女	山崎 南古館5
8.14	佐藤鋭司	康夫の長男	山崎 徳江久保田12の2
8.16	斎藤あゆみ	三男の2男	藤田 太子堂32
8.17	松男の長女	五郎の2男	山崎 北古館8
8.18	宏紀		山崎 滝山8

スポーツの秋  
ふるって参加するようご  
準備ください。

歌会始のお題は「子ども」  
昭和四十八年歌会始のお  
題は「子ども」と定められ  
ました。

お題の「子  
ども」の文字  
が歌句の中に  
なくても「子  
どもを表現す  
る言葉がよみ  
こまれてけれ  
ばよい」とな  
っておりませ  
う。詠進要領等  
は公民館にお  
問い合わせく  
ださい。

# 下着までまつくろ!

## 重要文化財の解体運搬おわる

八月二十日(日)心配された夜来の雨もどうやらあがり、いよいよ今日から古民家の解体作業にかかるというので、地元小坂方の部落長さんを始め、地権者や郷土史研究会の方がた三十余人が手伝いに来た。東北工業大学草野先生の指導をうけながら、棟領玉手大工、屋根職本田末治の両氏を中心に作業をすすめる。まず床板や天井をはがし、壁土をほじくってその構造を調べ、それを些細に記録し写真にとる。次は屋根むきだ。かやの並べ方、竹のあて方、なわの



【写真 解体の途中で骨格調査をする】

かけ方など、古来の材料と工法を鋭い目でしらべながらはがしていく。古かや、古竹、古板、古釘……みな復原に使う大切な文化財だ。ほぐしたものはていねいに分類整理して保存する。みんな顔や手は申すまでもなく「ふんどしまで黒くならしたぞ」というじょうだんも真実味がこもっている。こうして次の日には本職のトビの人も加わって骨組の解体をし、トラックで移築先に運ぶ。移築先の福祉センター西隣には組立式のりっぱな材料保存小屋や工作小屋もでき、竹のような長物にはシートをかけて大切に保存する。

八月二十七日(日)から古かやの整理にかかる。これは郷土史研究会員の奉仕作業で、二十八日は明治学級で休みだが、二十九日、三十日、三十一日まで毎日十人ずつ出勤、焼けつくような残暑を浴びながら、こまめにまつくろになつてかやをたたく。数十年たまりつもったすすを払い、ごみをたたき、長短ふりわけ小東にまるき、根本を切り捨て十把ぐらい合わせて大東にする。これも移築先に運んで、雨にあたらぬようシートで包む。隣家の吾妻さんや泉田の紺野さんからいただいたかやも地元の方が

たの骨折りで保管してあったのでこの際いっしょに整理した。  
土台石や軒場石も一つ残らず掘り起して運ぶ。これらもだいたい足りないようなので隣の屋敷跡からいたたき補充する。  
こうして着々準備をすすめ、九月末に棟上げ、十月初旬に屋根ふき、そして十一月末日までには完成する予定である。

## 七堂伽らんの跡を求めて

### 再び徳江の発掘調査

今から千百年の昔、浄土式庭園を伴う阿弥陀堂があったものとの想定で、昨年十一月十五日から一週間発掘調査をした結果(註1)目指す場所には何も見当らず、予想外のところ礎石らしい大石が現れた。なにしろ昔(註2)立派な建物にしか使われない布目瓦がたくさん出土することや七堂伽らんの、言い伝いなどからみて、昔このあたりに立派な寺院があったということは学者たちの一致した定説になっている。

（註1）何も出ないのではなく、一万年前のものといわれる石器が出て新しい問題を投げかけている。  
（註2）製作年代を示す文字瓦や腰浜廃寺のものと同型の旋回状流文軒丸瓦などあり。



《昨年の発掘調査》

今回はこの大石を手がかりとして調査を進めるべく準備を進めている。それは徳江の引地芳男さんの桑園(字沼田六三番)地約一〇〇

お悔み申し上げます		(八月中に亡くなられた方 敬称略す)	
死亡日	氏名	年齢	住所
8月2日	大波 大波	89	徳江 熊野22
7月7日	渡辺 七郎	63	藤田 観月台1の34
12月12日	佐藤 富治	65	藤田 北20
12月12日	渡辺 次男	55	徳江 沼田59
23日	後藤 次男	52	鳥取 大門16
26日	高村 サト	85	高城 南畑 25
27日	佐藤 新市	56	山崎 小館 18
28日	住藤 正二	79	徳江 拾俵橋1

# みんなの心をこめて！

## 古民家の保存に協力

(郷土史研究会)

郷土史研究会(会長早田 二、屋根ふき手元人夫約五盛さん)では八月二十二日 十一日十三日四日間 午前役員会を開き、古民家 三、手なわ供出約二百束 移築について次のような応 援をすることを決めた。

(出席十九名) 森江野六〇、大木戸四五、大枝二五

一、古かやの整理(すすた 四、植木移植 一、古かやの整理(すすた 四、植木移植 一、古かやの整理(すすた 四、植木移植 一、古かやの整理(すすた 四、植木移植



【熱心に勉強する学級生 福祉センター講堂】

### 一(明治学級だより)一

#### 「老人の生きかた」

永井先生の話をきく

八月二十八日、国 学級生も合流して永井先生 見町老人クラブ連合 の話をきく。老人クラブ総 会の総会と研修会が 会は代議員制であるので人 員に制限があり、希望者誰 でもは出ることができない 。そこで明治学級生として 参加することになる。

午後一時から老ク総会、 庶務・会計の報告・予算・ 決算の承認・来賓の祝辞等 あり、午後二時から研修会 に移る。このときから明治

#### 菅三月の屏風など

#### 民俗資料たくさん寄付

県指定重要文化財になっ た住宅を町に寄付して話題 を呼んだ佐藤勝一さん(大 字小坂字木八丁)は、こん どの解体移転に当り、同家 に先祖から伝わってきたい ろいろな家具や什器類を郷 土史研究会に寄付すること を申し入れた。民俗資料収 集を計画中であった研究会 では大よこびで、さっそく これをいただき、差し当 り目下休館同様になってい る青年研修所に保管してお くことにした。こんどいた だいた品物を見ると、養蚕 もなく手放された。

や蚕糸関係のもの、農耕や 山林関係のもの、台所用具 や神仏関係のもの、たんす 長持、おかるなどの家具類 明治初年に買った時計その 他、先祖の生活や郷土の産 業を調べるにはもってこい の物ばかり、われわれ戦前 派の者にはまことになつか しく感じられる。

特に同家の家宝として五 つ組の朱塗りの大杯と共に 伝えられてきた「菅三月の 大屏風」は、この家のつき ものだからといって惜し気 もなく手放された。

#### あつかし俳句会(八月十九日)

兼題 「サンガラス」	席題 「残暑」
* 朝発ちてバス乗り換えの辻残暑	早田 灰鳥
* 中段に南瓜の一つ吊られけり	奥山 甲二
* 石庭に黒蝶狂ふ残暑かな	斎藤黄鶴楼
* 葉隠れの南瓜大きく見つけた	一陽
* 古里は変り果てたりサンガラス	勝エ
* サンガラス胸に吊せりパンタロンの女	正 齋
* タラップを降る外人のサンガラス	正 一
* 仏前に南瓜の匂ふ朝餉かな	泰山
* 盆経をまわりくゝて残暑かな	痴 山
* つぶやきてつぶやき続く残暑かな	雨 田
* 大鍋にナダ割り南瓜の煮られけり	蕨 水
* 南瓜もいでなでで見ると多子の父	山 月
* サンガラスとればやさしき乙女かな	亭 司
* サンガラスかけて眺むる人の浜	吐 網
* 見馴れたる妻を見直すサンガラス	祥 子
* 風もなく農良着塩ふく残暑かな	かね子
* 悴帰る電話ありて南瓜の実りを知る	貞 子
* 心まで己いつわりサンガラス	えい
* 吾が里の南瓜の味は天下一	はる子
* 母の忌の南瓜うま煮夕の膳	昭 子
* 人嫌い独りも嫌いサンガラス	栄 子

#### 今月の明治学級

#### ふるさと物語

時日 九月二十六日(火)

午後一時半から

場所 福祉センター

講師 小林金次郎先生

テーマ ふるさと物語

わたくしたちの郷土に

そのうち明治学級の歌も作 っていたかもしれません。